

## 能・狂言の歴史に触れる

所属・小助川元太

### 1. 授業の基本情報・概要

日本芸能史は、学校教員養成課程国語教育専修の国文学分野の選択科目であり、また、総合人間形成課程国際理解教育コースの日本アジア理解分野の選択科目でもある。本授業では日本の代表的な古典芸能であり、和の文化を象徴するものの一つである能狂言にテーマを絞り、渡来芸能としての散楽から徳川幕府に式楽として保護されるまでの、猿楽能の史的展開を辿る。

国語の新しい学習指導要領では「伝統的な言語文化」を重視し、小学校高学年から簡単な古文が導入されることになったが、このような流れの中で、以前は参考程度に教科書に掲載されてきた〈柿山伏〉などの狂言台本も、新しい検定教科書では授業で本格的に取り上げる教材として扱われている。これから教壇に立つ学生には、能狂言に関する正しい知識を身につけさせる必要があると考えている。

さて、今年度のシラバスに記載した授業の目的と目標は以下のとおりである。

#### 【授業の目的】

能狂言の形成・展開を学び、テキストを読解することによって、日本を代表する芸能を深く知り、和の文化を見直すきっかけとする。

#### 【授業の目標】

1. 能狂言に関する基礎知識を身につける。
2. 能狂言が他のジャンルの芸術に及ぼした影響を説明することができる。
3. テキストの読解を通して、能狂言に関する知識を深める。

上記の目標・目的を達成するべく、以下のような授業と評価を行った。

#### 【授業の進め方】

1. 能狂言の歴史について  
プリントを配付して講義を行う。
2. 作品講読  
『風姿花伝』『申楽談儀』などの世阿弥の伝書や能の台本（謡曲）を読む。
3. 作品の鑑賞  
能・狂言をDVDで鑑賞する。

#### 【実際の授業内容】

- 第1回：ガイダンス。授業の進め方の説明。
- 第2回：散楽から猿楽へ
- 第3回：翁猿楽について
- 第4回：猿楽の伝承（『風姿花伝』神儀云）
- 第5回：猿楽の伝承（『風姿花伝』神儀云）
- 第6回：南北朝期の芸能界と観阿弥登場
- 第7回：観阿弥の大改革・〈自然居士〉
- 第8回：世阿弥と義満
- 第9回：観世座大夫としての世阿弥
- 第10回：義持と世阿弥・〈井筒〉
- 第11回：義教と世阿弥
- 第12回：元雅・〈隅田川〉
- 第13回：音阿弥と金春禅竹
- 第14回：金春禅竹・〈定家〉
- 第15回：試験・戦国～江戸の能狂言

#### 【成績評価】

試験（60%）、レポート（20%）及び授業に取り組む姿勢（20%）により、総合的に評価する。

### 2. 授業評価・授業研究の内容

授業評価については、最終授業の際に匿名のアンケートを行った。（35名）質問項目は以下のとおりである。

1. 授業に真面目に取り組んでいましたか？
2. 授業内容は理解しやすかったですか？
3. 授業で学んだ内容で、とくに興味を持ったところやおもしろかったところは？
4. 3について、どのようなところに興味やおもしろさを感じましたか？
5. 意見・要望・感想・メッセージなどがあれば、書いてください。

### 3. 授業評価結果

1. 授業に真面目に取り組んでいましたか？  
ア 真面目に取り組んだと思う。（9名）  
イ ときどき集中していなかったときもあった。（25名）  
ウ あまり真面目に取り組んでいたとはいえない。（1名）
2. 授業内容は理解しやすかったですか？  
ア 理解しやすかった。（17名）

イ ふつうだった。 (15名)

ウ 難しかった。 (3名)

### 3. 授業で学んだ内容で、とくに興味を持ったところやおもしろかったところは？

- 舞の独特のリズム
- 今まで漠然としたイメージしかもっていなかった能や狂言を初めて見たり、歴史を学ぶことでどんどん能に惹かれていきました。日本史では少ししか習わなかった世阿弥は成功だけではなく、苦悩の時代も多くあったのを知ったり、能のストーリーの深さを知り、おもしろかったです。
- 能が時代のニーズにあわせて変化していくところ。
- 円環構造を用いた作品。
- 世阿弥が僧にとってアイドルだったところ。
- 能のストーリー。
- 能のなりたち。世阿弥について。
- 世阿弥の人生 (3人)。
- 能を実際に動画で見たところ。
- 能とその歴史。
- 狂言。
- 能、猿楽の歴史について。 (2人)
- 隅田川 (3人)。
- 『風姿花伝』や『隅田川』など、よく耳にする題材の詳しいところまで知れたこと。
- 能をビデオで見たこと (隅田川など)。
- 日本の文化が現代にまで伝わってきているという点。
- 実際に能や狂言は見たりできないので、DVDでプロの演技が見られてよかった。
- 世阿弥や元雅のところ。
- 「隅田川」が個人的には理解しやすくて、一番おもしろく感じた。能もおもしろいと思えた作品で、興味を持てた。
- 観世座の歴史。
- 佐渡狐。
- ビデオ鑑賞で学んだ能の作品。
- 能や狂言を見る機会はあまりないので、見られてよかった。
- 能について (演じられる作品、演じる人)。
- 今まで関わったことがなかった能の世界を実際に見ることで親しむことができたところ。

○歴史の変遷の中で、その芸風が変化していった所はとても興味深かった。

○世阿弥の心身の成長と共に訪れる苦悩。

### 4. 3について、どのようなところに興味やおもしろさを感じましたか？(以下抜粋)

- 能のストーリーの深さに興味をもちました。
- 本来、神様へ奉納していたものが民間へ、そして將軍らにと、見る人が変化していく中で、いかに飽きさせず生き残るか、という工夫とその過程に興味を持った。
- 現代の様々な場面に応用されていると感じた点。それまでに見たものと明らかに異質だった点。
- 昔にもアイドルみたいな人がいるのが面白かった。
- 能の舞や演奏のおもしろさ、演技や謡などは作品によって、わからなかったりしたけど、ストーリー (脚本) はどれもおもしろいと感じました。
- 世阿弥の才能や、彼を取り巻いていた環境、苦勞した話などに興味を持った。
- ほめたたえられたのに調子に乗ってはいけないとか、大切だけどむずかしいことだと思ったから。
- 現代の演劇とは違う、独特の雰囲気やセリフなど。
- 何をやっているのかわからなかった能を楽しめるようになり、易しめの作品が他にもあるならみてみたいと思った。
- (狂言) 滑稽な芝居が見る側を引き込ませる独特な雰囲気に私は魅力を感じた。
- 元々歴史が好きであるため、歴史の流れを追って動きを見ていくことはとても興味深かった。
- 隅田川に出てくる子方を出すべきか出さないべきかを考えること。
- 風姿花伝が能を教えるときに年齢ごとにすべきことを書かれていることを初めて知った！「なるほどな」と思うことがたくさんあった。
- 実際に見てみないとわからないので、セリフが何を言っているのか理解できないとしても、見ることで能に対する考えを持つことができた。
- 見る物すべてが神仙で、きものや形すべ

ておもしろかった。

- 授業の内容にも、世阿弥については、小さい頃から大人になってからのことまで、さまざまなエピソードがあったので、世阿弥という人物に対して興味をもって学習できました。
- 世阿弥のところは、思春期を超えてからの彼の苦悩が世阿弥も普通の人間で挫折することもあるんだなと思い、おもしろく感ぜられた。元雅は、隅田川が授業中に観た話の中で一番おもしろかった。
- 世阿弥は若い頃から山あり谷ありなところや、いろいろなことを成し遂げたところに関心を持ちました。
- （隅田川）物語の理解のしやすさ。幻となって出てきた梅若丸が実際に登場するところ。物狂の女が伊勢物語を引用して渡し守をやり込める。
- 『風姿花伝』から当時の様子をよみとれるところがおもしろいと感じました。
- 観阿弥～世阿弥～息子たちへという世代の移り変わりの中で、親族内での仲間割れや方針の転換など時代ごとに変化していった点。また、将軍との関連性も興味深かった。
- （狂言「佐渡狐」）話の内容が分かりやすく、おもしろい。
- 今まで見ることのなかった能の作品を授業で見ることができたので良かった。思っていたよりも堅苦しさはなく、現代でも状況が分かったり、感情が通じていたりする部分があったので、おもしろかった。
- 人の動きや演奏など。
- 能というのはとても堅苦しく手を出しにくいイメージでしたが、そんなことは全くないのだなと思いました。ストーリーに惹かれることが多くて、ついつい見入ってしまいます。そして、そのストーリーを演じる人たちによって物語が一層おもしろくなるのも面白い！と感じました。
- （隅田川）教材としても使える内容だと思った。実際にどちらのパターンでも表現されており、答えが一つではないところがよい。（子方が出るか否か）
- 自然居士を見たときに、能の独特の面白さについてもっと学びたいと思った。

○それぞれの芸風を実際に見ることで理解し、それについての歴史背景を調べて、おもしろかった。

○それぞれの話のストーリーがとても心に残りました。狂言は、現代人でも面白いと笑えるほどの内容でしたし、隅田川のストーリーにはとても感動しましたし、「親の子に対する愛の深さ」を感じました。

○（世阿弥の苦悩）幼い頃から周りにちやほやされていたと聞いたし、日本史の授業でも聞いていたので、順調な生活を送っているのだと思っていたから。

○（隅田川）子方の是非。

## 5. 意見・要望・感想・メッセージ(略)

### 3. 「授業時間外学習の促進」について

とくに宿題を出したわけではないが、授業で配布をした参考資料で、授業では触れなかった部分については、各自読んでおくようにほぼ毎回指示をした。

### 4. 総括

本授業は6年目になるが、資料内容の改善や授業中に見せる能・狂言のDVDの種類、見せ方などに工夫を重ねた結果、授業を通して、堅苦しいイメージで敬遠されがちな能・狂言に親しみを感じることができたり、猿樂の歴史や文学としての能本（謡曲）の魅力に気づくことができたりする学生の割合が増えていることを実感する。アンケートの2問目「授業内容の理解のしやすさ」では、「理解しやすかった」が17人、「ふつうだった」が15人という結果であったが、5問目の「意見・要望・感想・メッセージ」では、「面白い授業だった」「興味が持てた」「満足」という記述が多数見られたため、学生の多くが授業内容には満足していたものと思われる。もちろん、「プリントに通し番号をつけてほしい」、「スライドの文字の色が多すぎて、どれが重要なかわかりにくかった」という要望もあり、改善すべき部分もまだ多くあることがわかった。また、授業時間外学習に対する指示をより明確にすることによって、さらに学生が学びを深めることができるかもしれないと感じた。今後の課題としたい。